

OPINION

中部経済新聞

英国の経済規模は2024年に名目GDPで3・5兆米ドルと推定され、世界第6位の大国である。この指標で日本のGDPは4・3兆米ドル、労働力人口は英国の約2倍である。英国経済はコロナ禍当時よりはるかに強靱になっている。

ナビゲーター

るように見えるが、富は必ずしも平等に分配されているわけではない。多くが生活費の危機に直面しており、国民の20%は貧困水準を下回っていると推定される。

生活の危機は、サプライチェーンの問題や法的障壁からの物価高騰、一部はロシア・

日本への期待 世界各地から

其 96

金融サービスで世界ハブを維持

ウクライナ戦争の影響によるエネルギー費の上昇など、各種の要因が絡み合っており、各々のつながりが弱体化していることも作用している。さらに特定の産業で労働力の技能不足に直面しており、経済の生産性の維持にはこれに対処することが必要である。技能不足に直面する分野は、IT・テクノロジー、看護・医療、エンジニアリング・専門職、中等教育などである。

イギリスから(下)

英国の対日輸出額は年間140億英ポンド(現レートで2兆8千億円)に上る。最大の輸出は金融サービスであり、次いで運輸・保険である。日本は、英国にとり14番目の貿易相手国である。日本からの輸入額は、輸出額とほぼ同額である。輸入は主に自動車、機械、電子機器である。英国に進出している日系企業では日立製作所、伊藤忠商事、日産自動車三大企業である。

1300社以上の日系企業が英国にあると推定され、その40%が自動車関連企業である。これらの企業は合わせて14万人を直接雇用している。日英の関係は明るく、日本企業は英国やプロジェクトに180億英ポンド以上の投資をしている。

英国の経済成長率は、今後2年間それぞれ年率3%程度と予想される。将来展望は産業ごとに異なるものの、金融サービスはブレグジット関連の課題があるが、英国は世界のハブとしての地位を維持するだろう。フィンテックの革新と強力な法的枠組みが引き

な成長機会につながる。コロナ禍によって大打撃を受けた小売業や宿泊・観光業は回復しつつあるが、顧客心理の変化や景気変動の影響を受けるだろう。

中小企業の先行きは用心が必要だが、樂觀視できる。労働力確保のためのハイブリッドな勤務形態や、差異化の一形態としてのユニークな顧客体験の創出などの順応性が将来の成功のカギを握っている。また新たな市場を開拓する手段としてのDXも、中小企業の回復力と成長にとって重要な役割を果たすと思われる。

【サイモン・ハスラム、リム中産連】
(月曜日に掲載)